

# ソーシャルワーカーの社会資源 開発能力とネットワーク

千葉県白井市役所

東洋大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程

鈴木 智子

# 01 研究報告

## ● 研究テーマ

地域住民との連携・協働により社会資源を開発した経験のある  
ソーシャルワーカーのプロフェッショナルコンピテンス



- ◇ ソーシャルワーカーの職務上の目的や責務を遂行するため、 ソーシャルワーク実践の基盤要素である知識・技能・価値を効果的・統合的に活用して実践に適用する個人の能力の総体
- ◇ 構成領域… 基盤要素 / 対人関係構築などの実践行動 / 観察・判断、態度・性格などの内面特性（鈴木 2020）
- ◇ コンピテンシー… プロフェッショナルコンピテンスを構成する個別具体的要素

# 01 研究報告

## ● リサーチクエスチョン

- ◇ 地域共生社会の実現にあたって、社会資源の開発に関する能力の獲得が重視
  - ⇔ ソーシャルワーカーの自己実践評価は低い傾向



- ◇ 地域住民と連携・協働して、地域に必要な社会資源を開発しているソーシャルワーカーは、どのような能力を有しているのだろうか。

# 01 研究報告

## ● 調査対象

多世代向けサロン、商店街や市区町村全体を巻き込む見守り・支え合いのネットワーク、住民による助けあい活動を開発するなど、社会資源の開発において豊富な経験を有する、地域包括支援センターのソーシャルワーカー（9人）

研究大会での発表、  
専門誌等への掲載等

## ● 調査・分析方法

インタビュー調査 ・ 質的データ分析（佐藤 2008）

# 01 研究報告

---

## ● 質問項目

- ◇ 地域住民との連携・協働により社会資源を開発した際の具体的経過
- ◇ 社会資源の開発の原動力
- ◇ 地域住民との連携・協働による社会資源の開発を実現するために専門職に必要な要件はどのようなもの  
と考えるか

# 01 研究報告

## ● 結果

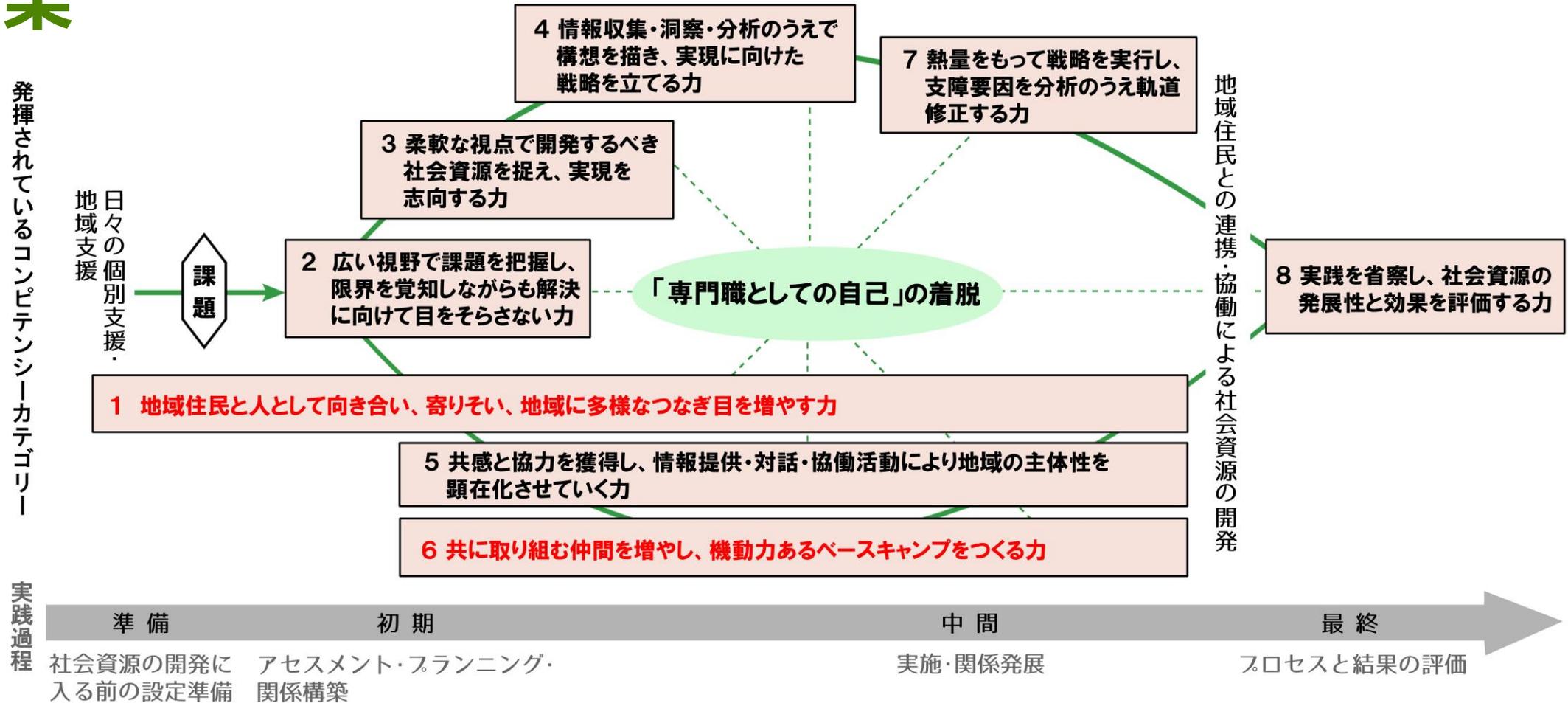


図1 地域住民との連携・協働により社会資源を開発したソーシャルワーカーのプロフェッショナルコンピテンス (鈴木 2022)引用

# 01 研究報告

## ● 結果

以下スライド11まで(鈴木 2022)引用

### 1. 地域住民と人として向き合い、寄りそい、地域に多様なつながり目を増やす力

- (1)信頼を礎に人とつながり、人をつなげ、関係性を紡ぎ続ける
- (2)専門職の鎧を脱いで地域住民と人として向き合い、相手の日常と価値観に寄りそう

### 2. 広い視野で課題を把握し、限界を覚知しながらも解決に向けて目をそらさない力

- (1)個別支援の限界を捉えつつ、解決に向けて目をそらさない
- (2)分野を限定せず広い視野で地域をみて、課題や不足資源を捉える
- (3)既存制度、自身、組織だけでは課題が解決しえないことを知っている

# 01 研究報告

## ● 結果

### 3. 柔軟な視点で開発すべき社会資源を捉え、実現を志向する力

- (1) 課題を解決する社会資源がひらめく
- (2) 地域からの相談や提案を受け止めて実現を志向する
- (3) 担当地域と地域づくりへの思いがある
- (4) 既成の枠組みに捉われない柔軟性があり、必要と思えることはまず「やってみよう」と考える

### 4. 情報収集・洞察・分析のうえで構想を描き、実現に向けた戦略を立てる力

- (1) 情報収集をし、社会資源開発と運営に必要な要素を洞察・分析する
- (2) 社会資源の構想を描き、開発の実現に向けて作戦を練る

# 01 研究報告

## ● 結果

### 5. 共感と協力を獲得し、情報提供・対話・協働活動により地域の主体性を顕在化させていく力

- (1) 的確な言葉がけによって相手の共感を獲得できる
- (2) 人や組織の得意分野を見定めて役割を依頼し、協力を獲得できる
- (3) 情報提供・対話・協働活動により地域の主体性の顕在化を促す

### 6. 共に取り組む仲間を増やし、機動力あるベースキャンプをつくる力

- (1) 働きかけと調整、求心力のある場をつくることによって、協力・協働者を増やしていく
- (2) 共に取り組む仲間からなる、機動力のあるベースキャンプをつくる

# 01 研究報告

## ● 結果

### 7. 熱量をもって戦略を実行し、支障要因を分析のうえ軌道修正する力

- (1) 立ち上げ期は細やかに働きかけ、熱量をもって動く
- (2) 戦略を実行し、運営に必要な資源を確保する
- (3) 支障要因を分析し、柔軟に軌道修正しながら取り組みを続ける

### 8. 実践を省察し、社会資源の発展性と効果を評価する力

- (1) 実践を省察し、社会資源の発展性と効果を評価する

# 01 研究報告

## ● 結果

全体に影響するコンピテンシー

### 9. 「専門職としての自己」の着脱

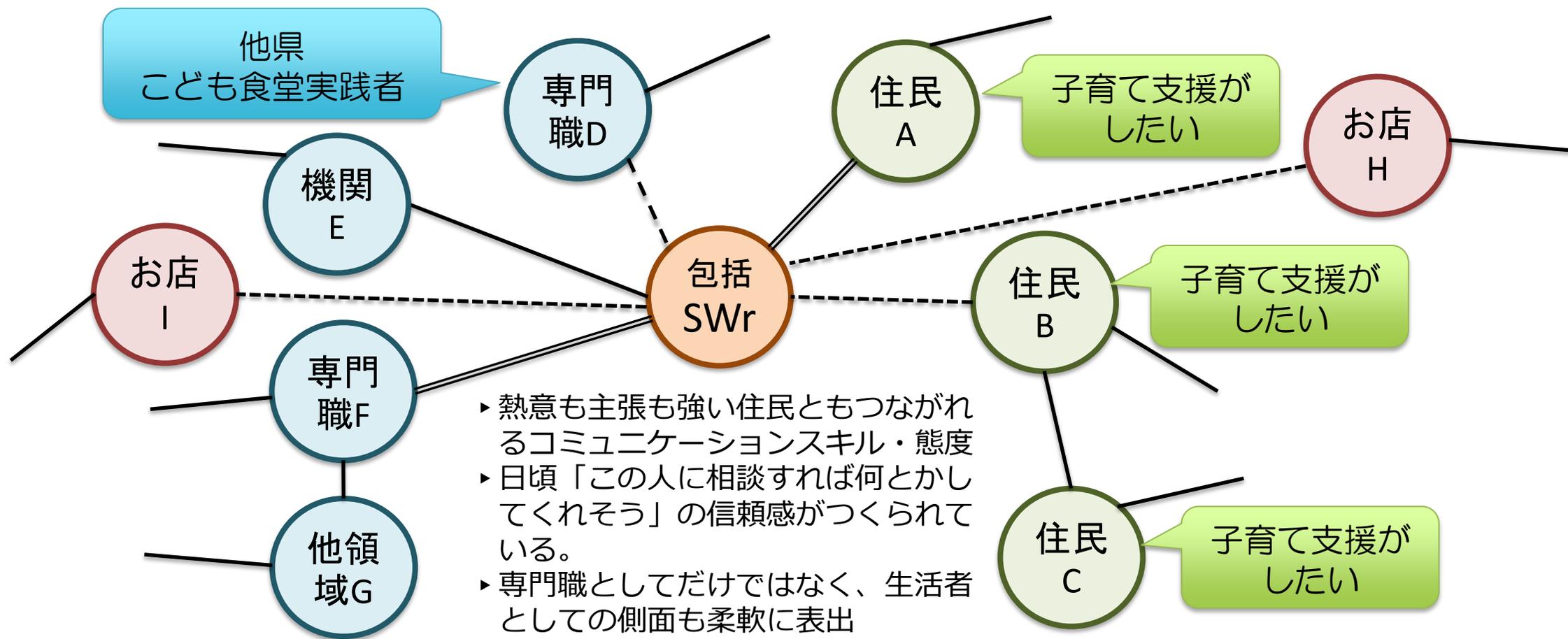
- ◇ 『「専門職としての自己」の着脱』は、他のコンピテンシーの効果を高める触媒のような役割を果たす、包括的なコンピテンシー
- ◇ 生活者としての自己 ⇔ 専門職としての洞察・分析・実行力  
「専門職の鎧は一回脱いで、地域の日常に入る」
- ◇ 実践者は、場面に応じて柔軟に専門職としての自己を顕在化させたり、消失させたりしながら各コンピテンシーを発揮しており、このことによって地域住民と信頼関係を結び、社会資源の開発という実践の目的を果たしていた。

# 01 研究報告

以下本報告用に作成

## ● 結果 ～分析から見いだされた社会資源開発のネットワーク～

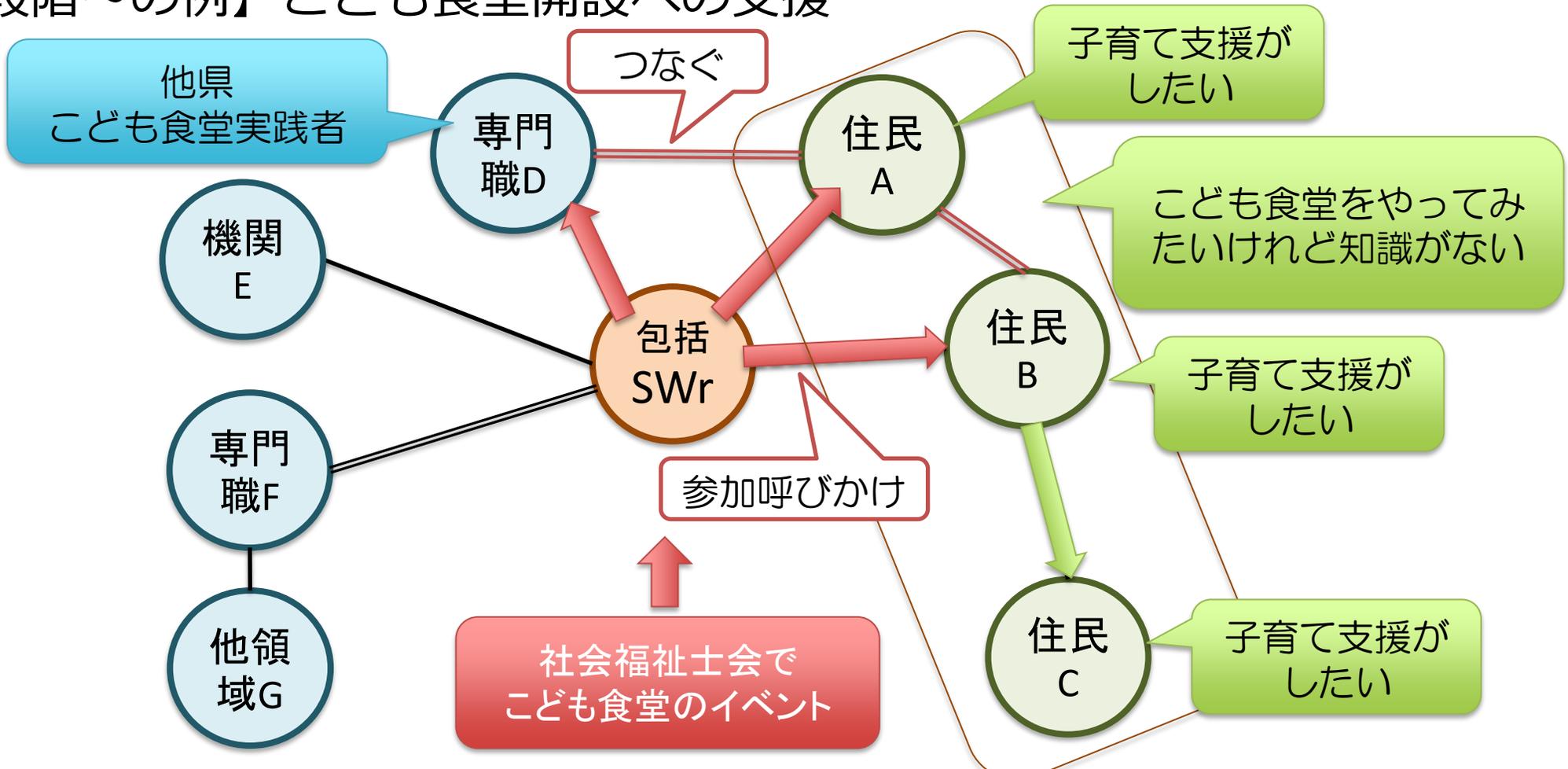
【準備段階】 日頃の実践：多様な領域の人びとと、どれ位つながりの線を増やしておけるか



# 01 研究報告

## ● 結果 ~分析から見いだされた社会資源開発のネットワーク~

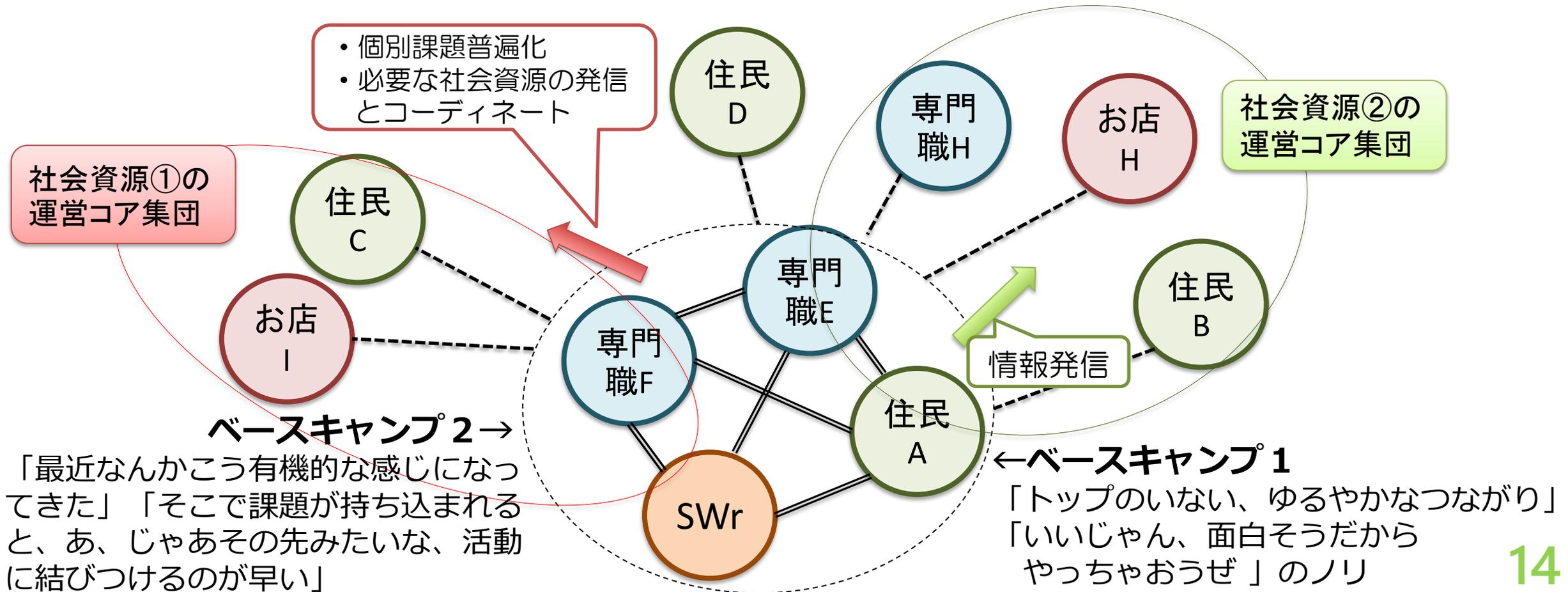
【初期段階~の例】 こども食堂開設への支援



# 01 研究報告

## ● 結果 ~分析から見い出された社会資源開発のネットワーク~

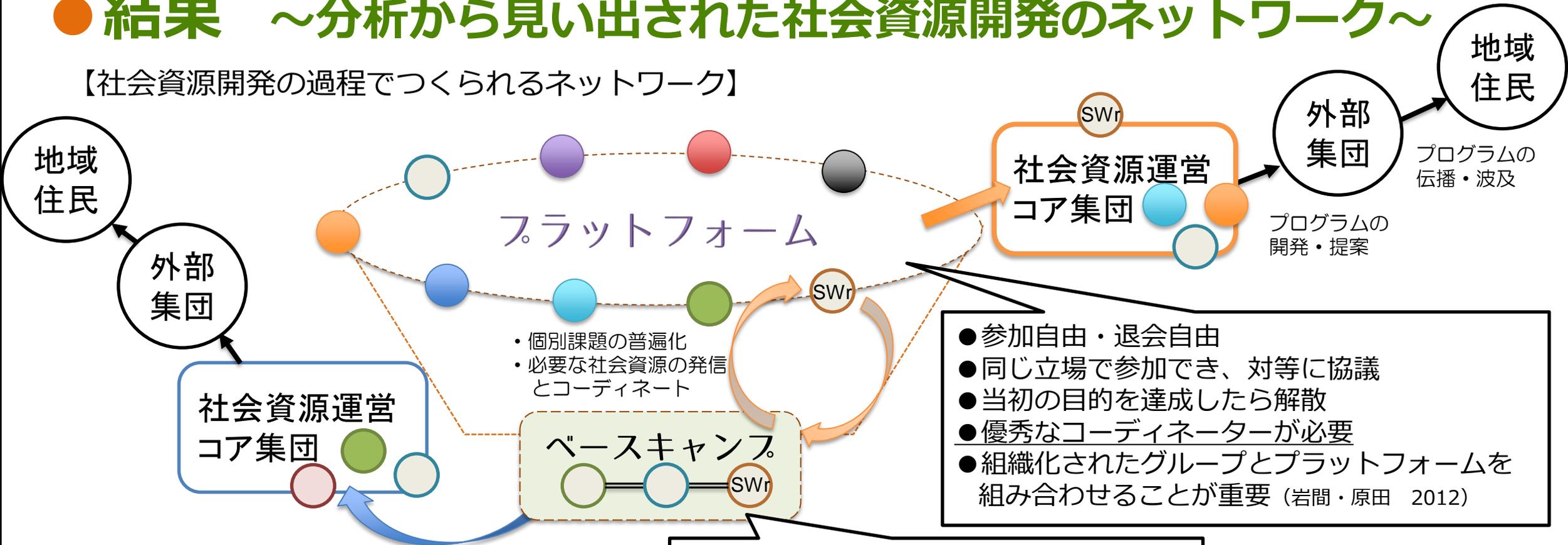
機動力のあるベースキャンプをつくる



# 01 研究報告

## ● 結果 ～分析から見いだされた社会資源開発のネットワーク～

【社会資源開発の過程でつくられるネットワーク】



### 地域住民インタビューより

「中心にあるのは、ピラミッド型の組織じゃなくて、どっちかっていうと、へそ、へそから色々な情報、ネットワークを発信してやると、そのネットワークの中で、様々なことが起こるよ。で、いいことは長く続くよ」

- 地域において情報を発信し、コーディネーター機能を果たす核となるクラスター
- 有機的つながり。迅速で前向きな決定をし、それを実行する力をもつ

SNCD 地域福祉におけるソーシャルネットワーク 第12回研究会  
スライド11(堀 2021)一部引用

## ● 考察

- ◆ 複数の社会資源の開発を実現するソーシャルワーカー…  
相手の関心領域を把握。濃淡のあるつながりを数多くもつ。
  - ◆ 課題を把握した際 ⇒ 情報発信者・つなぎ役に。初期段階は個別に声をかけて、社会資源運営のコア集団を形成。  
自らが運営の中心に入るのではなく、薄い関わりを続ける。
  - ◆ 様々な形態によるベースキャンプを構築。同じ志を有する、地域の核となる「仲間」からなり、決定の迅速性、実行力がある。組織としての頑強さは不要。場の中に、快適さ、楽しさ、信頼感がある。
- ⇒ 社会資源開発の第一歩として、このような有機的クラスターを作ることを意識できると良いのでは。

これは結構難しい

# 文献

---

岩間伸之・原田正樹 (2012) 『地域福祉援助をつかむ』 有斐閣.

佐藤郁哉(2008) 『質的データ分析法——原理・方法・実践』 新曜社.

鈴木智子(2020) 「ソーシャルワーカーのプロフェッショナルコンピテンス  
概念の検討 ——国内文献のレビューによる特性と要素の析出」 『東洋大学  
大学院紀要』 56, 135-53

鈴木智子(2022) 「地域住民との連携・協働により社会資源を開発したソー  
シャルワーカーのプロフェッショナルコンピテンス——実践から導き出さ  
れた専門職の能力——」 『社会福祉学』 63 (2), 56-69